

令和8年  
岩手県教育委員会定例会  
1 月

岩 手 県 教 育 委 員 会

令和 8 年 1 月 岩手県教育委員会定例会議事日程

令和 8 年 1 月 19 日（月）午後 1 時 30 分

第 1 会期決定の件

- |     |          |  |               |
|-----|----------|--|---------------|
| 第 2 | 事務報告 1   | 令和 7 年 12 月県議会臨時会の概要について                         | ( 教 育 企 画 室 ) |
| 第 3 | 事務報告 2   | 令和 8 年度県立一関第一高等学校附属中学校入学者選抜検査の実施について             | ( 学 校 教 育 室 ) |
| 第 4 | 事務報告 3   | 今後の県立高校に関する地域検討会議（第 3 回）及び意見交換会（第 2 回）等の開催結果について | ( 学 校 教 育 室 ) |
| 第 5 | 事務報告 4   | 令和 7 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について                   | ( 保 健 体 育 課 ) |
| 第 6 | 議案第 29 号 | 岩手県いじめ問題対策委員会専門委員の任命に関し議決を求めることについて              | ( 学 校 教 育 室 ) |

閉会

## 事務報告 1

令和 7 年 12 月県議会臨時会の概要について

令和 7 年 12 月県議会臨時会が開催されましたので、概要について別紙のとおり報告します。

令和 8 年 1 月 19 日



## 令和7年12月県議会臨時会の概要について

12月県議会臨時会の概要は、次のとおりであった。

### 1 日 程

12月24日（水）	本会議（招集、議案の提案、質疑、委員会付託）
	常任委員会
	本会議（常任委員会委員長報告、採決）

### 2 文教委員会【12月24日（水）】

#### (1) 議案の審議

議案第1号「令和7年度岩手県一般会計補正予算（第5号）第1条第2項第1表歳入歳出予算補正中歳出第10款教育費のうち教育委員会関係」について、教育企画室長から提案理由の説明を行った。

#### ア 質問等

小西和子委員及び斉藤信委員から、補正内容、学校給食の実施状況、ツキノワグマ対策等について質問があり、関係課長が答弁した。

#### イ 採決

原案どおり可決された。

## 事務報告 2

令和 8 年度県立一関第一高等学校附属中学校入学者選抜検査の実施について

令和 8 年度県立一関第一高等学校附属中学校入学者選抜検査の実施状況について、別紙のとおり報告します。

令和 8 年 1 月 19 日



## 令和8年度県立一関第一高等学校附属中学校入学者選抜検査の実施について

### I 実施日及び会場

実施日 令和8年1月17日（土）  
会 場 一関第一高等学校附属中学校

### II 適性検査受検者数

	募集定員	志願者数	志願倍率	本検査受検者数
令和8年度	70	108	1.54	108
(参考) 令和7年度	70	122	1.74	121 (辞退1)

※受 検 辞 退 者 数 0名  
追検査受検予定者数 0名

### III 適性検査方法

本検査  
ア 適性検査Ⅰ (検査時間35分 配点100点)  
イ 適性検査Ⅱ (検査時間35分 配点100点)  
ウ 適性検査Ⅲ (検査時間45分 配点60点)  
エ 面接 (集団面接 20分程度 配点40点)

※適性検査問題等の出題方針、問題、解答用紙、正答例は別添資料参照

### IV 今後の主な日程

内 容	期 日 等
追検査	令和8年1月24日（土）
選抜結果の通知（発送）	令和8年1月29日（木）までに投函
入学予定候補者（合格者）の受検番号掲載 （岩手県教育委員会ホームページ）	令和8年1月29日（木）15:00頃 ～2月3日（火）15:00頃
入学予定候補者手続き 「受検票・入学者選抜結果通知書（合格通知書） ・入学確約書」提出	令和8年2月3日（火）
入学予定者オリエンテーション	オンデマンド配信で実施



### 事務報告 3

今後の県立高校に関する地域検討会議（第3回）及び意見交換会（第2回）等の開催結果について

今後の県立高校に関する地域検討会議（第3回）及び意見交換会（第2回）等の開催結果について、別紙のとおり報告いたします。

令和8年1月19日



## I 地域検討会議（第3回）開催結果

### 1 内容

- (1) 「第3期県立高等学校再編計画」（修正案）についての概要説明  
 (2) 「第3期県立高等学校再編計画」（修正案）についての意見交換

### 2 出席者

構 成	出席者		
市町村推薦者等	① 市町村長（代理可） ④ 市町村中学校PTA関係者	② 市町村教育委員会教育長（代理可） ⑤ 各地区中学校長会代表者	③市町村産業関係者（2名以内）
オブザーバー	① 各地区選出の県議会議員	② 各地区内所在の県立学校長	

### 3 出席者数等

地区名	地区内の市町村名	実施期日	会場	出席者数				
				地区代表	県議会議員	地区校長等	傍聴者（報道）	地区計
盛岡 (盛岡①)	盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町	令和7年12月19日	サンセール盛岡	17	11	16	3	47
盛岡 (盛岡②)	八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町	令和7年12月18日	盛岡地区 合同庁舎	19	8	6	4	37
中 部	花巻市、北上市、遠野市、西和賀町	令和7年12月24日	花巻市定住交流 センター	18	0	12	13	43
県 南	奥州市、金ケ崎町、平泉町、一関市	令和7年12月18日	奥州市役所 江刺総合支所	18	6	15	11	50
沿岸南部	陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、大槌町	令和7年12月15日	陸前高田市 コミュニティホール	21	3	9	7	40
宮 古	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	令和7年12月19日	宮古地区 合同庁舎	16	1	7	9	33
県 北 (県北①)	久慈市、洋野町、野田村、普代村	令和7年12月16日	久慈地区 合同庁舎	17	1	5	6	29
県 北 (県北②)	二戸市、一戸町、軽米町、九戸村	令和7年12月23日	二戸地区 合同庁舎	14	1	5	5	25
計				140	31	75	58	304

#### 4 主な発言内容

I 第3期県立高等学校再編計画の策定について	
1 策定の趣旨	—
2 計画の性格	—
3 計画の期間	—
II 現状と課題	
1 岩手の未来を担う人材の育成	—
2 高等学校の多様化への対応（「共通性の確保」と「多様性への対応」）	—
3 少子化による生徒数減少への対応	—
4 地域や地域産業と高等学校教育との関わり	—
5 専門的な知識を持つ人材の育成	—
III 第3期県立高等学校再編計画の方針	
1 基本的な考え方	
(1) 全体方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の企業や産業との繋がりが深まり、より地域に定着し活躍する生徒が増えるような取組をしてもらいたい。（行政）</li> <li>・産業界として、引き続き、産業を支える人材の育成をお願いする。専門高校から就職の他、進学後の人材育成の繋ぎの役割をお願いする。（産業）</li> <li>・再編計画にも、「産業振興施策の方向性や産業化のニーズを踏まえながら」といった記載があることから、その通り進めてもらいたい。（産業）</li> <li>・自立した人材の育成、理数系人材の育成、AIの導入など様々なものを取り入れながら、高校、中学校、社会がより一層連携していかなければならない。（産業）</li> <li>・岩手において、どのような人材が求められているのか、産業構造も踏まえ考える必要がある。（産業）</li> <li>・地域産業に必要な人材を育成する教育が不足している。高校においては、地域との結びつきを強化し、地元企業や地元産業と連携する仕組みを構築してほしい。（産業）</li> <li>・不登校傾向の生徒や特別な支援を必要とする生徒が、公立高校で学ぶ機会を保障できるよう、生徒へのきめ細やかな支援体制の充実をお願いしたい。（教育）</li> <li>・高校は、地域振興の核であり、人口減少対策、定住政策の基盤となる。基本的な考え方には、教育や人材育成が強調されているが、地域の核としての役割も入れていただきたい。（行政）</li> <li>・再編は避けられない面もあるが、子どもが少ないからこそできることもあると思う。全体方針の5つの柱は良いフレーズだが、子ども達が良いと思えるように、具体的なアクションプランに落とし込んでいくことを期待している。（PTA）</li> <li>・一次産業を担う人材育成は重要であり、高卒で就職する生徒のために、待遇改善など民間も含めた支援の在り方について考える必要がある。（教</li> </ul>

	育)
(2) 学校・学級の規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域校については、地理的な要素や子ども達の多様な学ぶ機会の公平性という観点から、引き続き慎重な対応をお願いしたい。(教育)</li> <li>・地域校の考え方について、地域における学びの機会を保障すると明記されている点は評価しており、地域を核とした地方創生に寄与する姿勢として重要だと考える。(行政)</li> <li>・地域校については、今後 20 人を下回る時期が必ず訪れると見込まれるが、その時を待つのではなく、すでに地域貢献や地域連携に積極的に取り組んでいる高校があることを踏まえ、県教委として地域校に特色を持たせる支援を行うべきだと考える。地域校の特色化や多様性への対応を県全体で構想し、学びの質を保証しながら地域創生につながる高校づくりを進めてほしいと要望する。(教育)</li> <li>・地域校という概念を設けていただいたことには感謝したい。ただ、入学志願者数が 2 年連続して 20 人以下となった場合、統合協議では、校舎制、キャンパス制の考え方を十分に検討し、その検討を担保するような記載にしていきたい。また、統合協議の場合には、地域市町村や、地域の団体の意見も十分反映していただきたい。(行政)</li> <li>・1 学級校の募集停止に関する基準に該当する場合でも、地域の実情を十分に考慮し、校舎制等も含めて慎重な意見交換を行っていただきたい。(教育)</li> <li>・全校生徒 27 人の小規模中学校に勤務する中で、人間関係の逃げ場のなさや不登校の増加といった課題も実感している。高校でも、ある程度の生徒数があることで、多様な人間関係や部活動の機会が生まれ、子ども達にとって安心できる環境につながると考える。(教育)</li> <li>・40 人定員の見直し等については、岩手県の実態に合わせて検討する必要がある、国に対しても実情を積極的に伝えるべきである。(行政)</li> </ul>
(3) 通学区域	—
(4) 通学等の支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な学びの場を地域から失わず、ICT やオンライン教育を活用し、地域企業や産業と連携した実践的な学びで、地域を支える人材を育てることも考えられる。通学や生活面での支援をさらに充実させ、すべての子ども達が等しく学べる環境整備をお願いしたい。(産業)</li> <li>・水産系の宮古への集約に伴い、交通費や寮費などの負担が増えることが予想されるため、費用面での補助をお願いしたい。(PTA)</li> <li>・子ども達が安心して学べる環境を守るのは大人の責任であり、県全体で教育の在り方を見直し、遠距離通学や寮整備などの支援に予算を投じることが、岩手の教育の未来を支える鍵だと考えている。(PTA)</li> <li>・宮古への集約に伴う通学距離や時間的負担はやむを得ないが、経済的負担は大きくなるため、保護者への手厚い支援策を要望する。(PTA)</li> <li>・通学距離の問題で、進路希望を叶えられないこともあり、通学支援や寮の整備を進めていただけるとありがたい。(PTA)</li> </ul>
<b>2 高等学校教育の充実に向けた方策</b>	
(1) 高校の特色化・魅力化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これから、子ども達の学習環境はますます多様化していくことが予想される中で、各学校の特長や魅力を向上させていくことが必要ではないか。(産業)</li> <li>・高校の特色化・魅力化について、盛岡地区の高校においては、スクール・ポリシーに基づく特色ある教育を展開している。今後も、地域や生徒にとって、魅力ある取組、例えば探究的な学びを通してさらに進めていくことが重要である。(教育)</li> <li>・公立高校は費用負担が少ないため、親としては子どもに高校までは公立高校で頑張ってもらいたいという思いも含め、公立高校の魅力を高めることを期待する。(産業)</li> <li>・高校生活は社会に出る前の大切な 3 年間であり、子ども達には豊かで充実した時間を過ごしてほしいと考える。そのためにも、高校には地域の子</li> </ul>

	<p>ども達が魅力を感じられる学校づくり、学びづくりを進めてほしいと期待する。(PTA)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の魅力化を図らなければ、統合しても関心をもたれない状況が懸念されるため、統廃合の前に、特色化・魅力化への取組を示していただきたい。(行政)</li> <li>・修正案について、高校の特色化・魅力化の一環として、地域連携コーディネーターの配置促進及び資質向上への取組、探究共創交流会を設けることが具体的に示された点を評価したい。(行政)</li> <li>・気仙地域の4つの高校は、それぞれが特色を活かし、地域と連携しながら魅力化に取り組んでいる。県教育委員会には、各校の特色をPRし、地域の子ども達が自分に合った学校を選択できるよう、環境づくりを支援していただきたい。(産業)</li> <li>・県北地域には小規模高校が多く、各市町村に高校が必要という声もあり、それぞれの高校が特色ある運営を行い、魅力的な学校づくりに成功すれば、この学校に子どもを通わせたいと思えるようになる。(PTA)</li> <li>・オンデマンドでの課外や遠隔授業は、早期に始められる現実的な取組で、校舎の建て替えは時間がかかる取組だと思われる。中学生の段階で、地元でも学べるという安心感を持たせることが重要であり、早く始められる施策を進めていただきたい。(教育)</li> </ul>
(2) いわて留学 (県外募集)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内の子どもの数が激減していく中で、いわて留学について柔軟な環境整備をお願いしたい。現在、沼宮内高校においては8人の募集枠であるが、宿泊施設の問題をクリアした上で、定員の半分程度にすることも可能とするような柔軟性があっても良いのではないかと。(行政)</li> <li>・いわて留学について、県が本当に力を入れているのか疑問である。再編計画においても、伴走支援を推進するとの記載であるが、その程度でよいのか疑問である。葛巻町と西和賀町でかなりの留学生が入学してきているが、実際に現場を見た上で次の方向性を決めてもらいたい。(行政)</li> <li>・いわて留学に対する県のサポートが不十分である。noteの発信はやっているが、県外から留学を希望する生徒への窓口としての相談をやっていないのではないかと。(教育)</li> <li>・いわて留学の県外枠の拡大をお願いしたい。(教育)</li> <li>・いわて留学について、県教委で各高校のPRをまとめ、共同プロモーションを実施してはどうか。(産業)</li> <li>・修正案にいわて留学の取組支援が具体的に示されており、大変評価している。財政面での支援についても検討いただきたい。(教育)</li> </ul>
3 学校・学科の配置	
(1) 普通高校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門高校以外の高校においては、地域ごとに小クラス、総合学科でいろいろなものが学べる形を残すのが良いのではないかと。その場合、沼宮内高校で盛岡工業高校のカリキュラムが学べるとか、盛岡第一高校の授業をサテライトで受けることができるといった工夫も良いのではないかと。(産業)</li> <li>・普通高校について、学力面では多くの生徒がほぼどの公立高校にも入学できる状況にあり、私立高校を第一志望とする生徒が増えていることを強く実感している。公立高校の校長は異動があるため、継続的な魅力化に取り組むことが難しい面があると感じている。(教育)</li> </ul>
(2) 専門高校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盛岡地区における職業教育のセンター・スクールについて、地域連携コーディネーターを配置し、地域産業や地域との繋がりを強化してもらいたい。(行政)</li> <li>・職業教育のセンター・スクールについても、県と市町村がもっと連携して進めるべき。(行政)</li> <li>・専門高校については、集約して教員や高度な人材を集めて学べる環境を作ることが非常に大事である。また、集約先で学ぶことができるよう、寮などの環境整備が必要である。(産業)</li> <li>・公立高校の魅力の一つである、地元の企業や産業分野からもニーズが高い職業系・専門学科(農業系も含む)の充実を図り、地域の活性化につながるような魅力化を期待する。(教育)</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胆江地域は商業・工業・農業が揃っておりバランスが取れているが、農業系高校は県内に3校しかなく、その3校で県全体の農業教育を受け入れられるのか不安を感じる。（産業）</li> <li>・かつての水産高校のイメージではなく「水産はカッコいい」と思える教育を目指し、従来の枠にとられない魅力ある教育の在り方を考えるべき。水産分野では、県内にトップレベルの専門高校を設け、地域を越えて連携する大胆な改革が必要だと考える。（産業）</li> <li>・私立高校の授業料無償化に対し、公立高校では専門高校に力を入れるべきである。黒沢尻工業高校の学科改編のように、技術職を増やしていく方針については賛同することから、今後も力を入れていただきたい。（産業）</li> <li>・専門高校に入学する生徒が少なくなっている現状があるが、専門高校では食品開発等、特徴的な取組を行っており、今後も大切にしなければならぬと感じている。（産業）</li> <li>・人口減少が進む将来を見据え、Web 授業を積極的に導入し、地域にいても水産や調理師養成施設等の専門分野を学べる環境を整えるべき。（産業）</li> </ul>
(3) 総合学科高校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・紫波総合高校について、交通の利便性がよく、他の市町村からの入学者も多いが、向こう 10 年間の推計をみれば厳しい状況と認識している。現状は総合学科ではあるが、特定分野に特化した学科とすることも有効なのではないか。（行政）</li> <li>・総合学科高校の良いところは、農業、情報、調理など幅広く学ぶことができる点である。（産業）</li> <li>・紫波総合高校は、盛岡地区唯一の総合学科高校であり、魅力を高め、普通科や専門高校ではできない多様な人材育成を図っていくべき。（教育）</li> </ul>
(4) 定時制・通信制高校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高等学校の多様化への対応について、盛岡市も含め不登校生徒数が非常に増加傾向である。通信制高校に進学する生徒も増加しており、県立高校として、不登校を経験した生徒、特別な支援を要する生徒等、多様な生徒の受け皿としての役割が重要になってきている。今後、具体的な検討を進めてもらいたい。（教育）</li> <li>・高校に行けなかった 60 歳代や、学びたい 40 歳代など、幅広い年代の人々が学ぶチャンスとして定時制・通信制の門戸の広さは非常に大事である。（産業）</li> <li>・不登校傾向の生徒の進学先としても、学びの多様化学校（不登校特例校）のような新たな教育課程を持つ学校の設置は有効であり、県として積極的に検討してほしいと期待する。（教育）</li> </ul>
(5) 中高一貫教育校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高一貫教育校の花巻市への開校については引き続き継続議論をお願いしたい。（行政）</li> <li>・軽米高校の中高一貫教育は素晴らしい取組で、県教委も一定の成果を認めている。来年度からの学級減により、教員数が減るのではないかと心配しており、これまでどおりの教育が継続できるよう、配慮をお願いする。（産業）</li> </ul>
<b>Ⅳ 再編プログラム</b>	
1 全体プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特色ある学校を維持し、県内外から通いやすい環境整備を希望する。（PTA）</li> <li>・子どもの数が減少している中、岩手町を始め各市町村で、地元高校の入学者を増やす取組を進めているが、入学者の増加には時間がかかる。各市町村に時間の猶予を与えてほしい。また、県教委として協力をお願いしたい。（教育）</li> <li>・県立高校の再編計画においては、公共交通機関での通学が困難な地域の生徒の学びの機会を保障するため、柔軟な検討をお願いしたい。（教育）</li> <li>・定員割れが続いている現状で、将来的に学級減となり適正な人数になることは、学力向上に資する良い傾向につながるのではないかと感じる。（教育）</li> <li>・進学先が遠くなることで、親元を離れたくない生徒の進路が制限される可能性もあり、進路の選択肢を狭めないよう配慮してほしいと考える。（産</li> </ul>

	業) ・遠距離で集約するのは、少し無理があるのではないか。もっと教育の中身に費用をかけ、より良い教育環境の整備をすべきだと考える。（行政）
<b>2 地区別プログラム</b>	
<b>(1) 盛岡地区</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雫石高校については、行政としても力を入れており、秋田県や近隣市町村からの入学者が増加している。子どもの数は減少していくが、小規模校としての特色を生かして、存続に向けて取り組んでいく。（行政）</li> <li>・子どもの数が減少する中で、盛岡地区での統合が必要となるという点については、やむなしと思うところであるが、高校の特色化、魅力化という点を大切に考えていただきたい。（教育）</li> <li>・平舘高校の家政科学科への入学者が少ない状況について、これまで、学校、県教委の工夫が不足していたと感じる。家庭の学科については、男子生徒も募集しやすいように工夫する必要がある。（行政）</li> <li>・平舘高校の家政科学科の募集停止について、修正案で修正されなかったことについて、非常に残念である。（行政）</li> <li>・盛岡以北において、家庭科を総合的に学ぶことができるのは平舘高校の家政科学科のみである。募集停止について再度検討してもらいたい。（行政）</li> <li>・県内の出生数の半分は、盛岡周辺市町である。岩手の推進力になっていく子ども達でもあるので、選択肢の幅を残してもらいたい。（行政）</li> <li>・平舘高校の家政科学科の募集停止について、入学志願者が1桁前半という状況を見れば致し方ないとも考える。（産業）</li> <li>・盛岡農業高校人間科学科の学びと平舘高校家政科学科の学びは似て非なるものであり、家政科学科でしか学べないもの、八幡平市の人々との関わりの中でしか学べないものがある。（教育）</li> <li>・八幡平市では、市を挙げて様々な取組を行っており、地域みらい留学にも数名希望者が出てきている。また、寮の整備も検討中である。平舘高校家政科学科の募集停止については、あと3、4年ほど猶予をいただきたい。（教育）</li> <li>・平舘高校について、説明会等の取組により体験入学者の数が急増した。取組により数字が動くことを確認できたところであり、改めて家政科学科の存続を要望する。（行政）</li> </ul>
<b>(2) 中部地区</b>	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大迫高校については、今後の入学者数の状況を見て、募集停止等の判断については柔軟に対応していただきたい。（行政）</li> <li>・花北青雲高校情報工学科の募集停止はやめていただきたい。同科の学びは黒沢尻工業高校の半導体学科とは異なるものであり、また、花北青雲高校の情報工学科は志望者も多く、企業評価も高い現状を考え、募集を減らす必要はない。（行政）</li> <li>・北上管内は人手不足が深刻であり、特に工業系の人材育成に対する期待が高い。そういった点でも、黒沢尻工業高校への半導体関連学科の設置は地域の産業構造の観点から評価する。（行政）</li> <li>・遠野緑峰高校は、生徒の個性を生かした教育を実践していることから、遠野高校と統合した場合も、遠野緑峰高校の個性や良いところを尊重し、それぞれの個性を伸ばすという学校の方向性をなんとか維持した形であってほしい。（行政）</li> <li>・計画が教育委員会の都合優先で進められている懸念があるため、現在、定員が満たされている花北青雲高校に通う生徒や地域住民のニーズを十分に汲み取り、通学の利便性なども考慮すべきである。（産業）</li> <li>・遠野緑峰高校の地域愛が醸成されている良い面が失われないよう、説明にあった発展的な統合という方針を維持し、配慮をお願いしたい。（産業）</li> <li>・再編計画の「地域や地域産業を担う人材の育成」という基本方針から見ると、花北青雲高校の情報工学科は、幅広いIT人材を育成する上でまさにその好例であり、この分野の学びは黒沢尻工業高校の半導体関連学科と同様に今後も重要であると考え。（PTA）</li> <li>・専門学科は私立高校での設置が難しいため、公立高校が担うべき社会的な責任や使命が非常に重いと考え。合理性という名の拙速な統合に走らず、時間をかけて子ども達に示し、魅力ある学校づくりを踏まえた上で再編を進めていただくよう、修正案の見直しを強く求める。（教育）</li> <li>・地域ニーズに応じた半導体工学科などの新しい学科創設は、生徒の選択肢が多くなるという点で良いことである。（教育）</li> <li>・課題となっている県南工業高校の再編計画について、まずはそちらの道筋をしっかりと立てていただきたい。その上で、県南工業高校の計画よりも</li> </ul>



先に花北青雲高校の情報工学科の募集停止を進めるのは順序が逆ではないかという強い懸念を持っている。（教育）

### (3) 県南地区

- ・岩谷堂高校の再編計画について、総合学科の6つの系列が一体となって魅力を発揮しているという意見が同窓会や地域住民から多く寄せられており、農業・工業系列の縮小・廃止は学校の特色を弱める可能性があるとの懸念する。（行政）
- ・再編計画の当初案が公表された段階で、金ケ崎町として計画の見直し・撤回を正式に申し入れたが、その意見が反映されなかったことを非常に残念に思う。（行政）
- ・大東高校の募集停止に関する修正案では、令和8年度からの計画であるにもかかわらず、「令和7年度までの入学志願者の状況を踏まえる」と記載されている点に違和感があり、計画期間内の志願状況を踏まえる形に改めるべきだと考える。（行政）
- ・金ケ崎高校が完全統合となる場合、在校生は慣れない環境へ移ることになり、特に来年度入学生や令和9年度入学生は在学中に転校する形となるため、不安やストレスへの丁寧なケアが必要だと考える。（産業）
- ・PTA 内部でも「金ケ崎高校をなくさないでほしい」という強い意見が出たことはこれまでなく、保護者の受け止めとしては、致し方ないという側面も大きいと感じている。（PTA）
- ・岩谷堂高校が持つ6系列の多様な学びは大きな価値があり、中学生にとって高校選択の重要な要素となるため、系列の選択停止は進路選択に大きな影響を与えると懸念しており、入学状況を踏まえて停止時期に猶予を設けることも検討してほしいと考える。（教育）
- ・杜陵高校奥州校の金ケ崎高校校舎への移転については、教育環境が改善されることから概ね支持する声が多いと受け止めており、方向性として妥当だと感じる。一方で、奥州校に通う生徒の多くは様々な課題を抱えており、不登校傾向の生徒も含まれるため、通学距離や利便性が低下すると入学のハードルが高くなることを心配しており、通学アクセス向上のための手立てを検討してほしいと考える。（教育）
- ・金ケ崎高校の学級減については、志願者の大幅な減少を踏まえるとやむを得ないと理解しているが、統合方針が修正案でも変更されなかったことは非常に残念に感じる。（教育）
- ・大東高校情報ビジネス科の募集停止が2年間先送りされたことについては、次期計画で判断されるものと受け止めているが、新聞報道では「志願者数の推移を見て判断する」とされており、これが県教委としての公式見解であるならば、再編計画に明記すべきだと考える。現状の記載では、令和11年度入試以降は自動的に募集停止になる印象を与え、中学生や保護者が進路選択の段階で不利な判断をしてしまう可能性があるため、存続の可能性や判断基準を明確に示す必要があると考える。（教育）
- ・杜陵高校奥州校の金ケ崎高校校舎への移転にあたり、駅からの利便性が低下することを心配している。一方で、定時制と通信制が併置されることで生まれる教育的メリットには期待している。（教育）

### (4) 沿岸南部地区

- ・当初案に対し、大船渡市、陸前高田市、釜石市、住田町、大槌町の首長が連名で、地域産業を守るため、水産と調理師養成施設の学びの存続等を要望したが、修正案では、調理師養成施設の集約までの期間は修正されたものの、食物文化科の募集停止は、全く考慮されず非常に残念である。（行政）
- ・釜石高校、釜石商工高校の学級減について、現時点では推計に基づく予測であり、決定事項ではないとされているが、今後の推移を十分に見極めたうえで、慎重な判断をしていただきたいことを、改めてお願いする。（行政）
- ・食物文化科の募集停止が2年延期となったことについては、ひとまず安堵しているが、地域の産業界としては、学科の存続を求める姿勢に変わりはない。（産業）
- ・パブリック・コメントでは、通学の利便性、大船渡東高校の設備の充実などを理由に存続を望む声が多数寄せられていた。子ども達の学びの選択肢を狭めないことが一番必要であると考え。（産業）

- ・地元産業は、慢性的な人手不足に直面しているが、これまで、大船渡東高校の食物文化科は、地域産業を支える多くの人材を輩出しており、地元産業の持続的な発展、地域社会の活力を維持するためにも、学科の存続の再考していただきたい。（産業）
- ・地域校の消失は、地域そのものの衰退につながりかねない。さまざまな事情は理解しているが、住田高校の存続を強くお願いしたい。（産業）
- ・陸前高田市のように水産業が地域の柱である地域では、水産学科の廃止は将来の人材育成に大きな影響を与えると懸念している。生徒数だけを基準に、判断するのではなく、少人数でも水産を学べるコースの設置など、中間的な選択肢を県として検討していただきたい。（教育）
- ・食物文化科の存続は、地域の人材育成や産業振興に直結する重要な課題となっている。教員不足が理由との説明があったが、採用枠拡充などの対応も可能ではないかと考える。存続に向けた再検討をお願いしたい。（教育）
- ・今回の再編計画により、住田町の多くの中学生は、通学圏内で希望する高校が選択できなくなる可能性があり、地域の子どもの進路選択を狭め、教育の機会の保障が損なわれることが懸念される。自宅から通える範囲に、選択肢となる高校を確保していただきたい。（教育）
- ・沿岸南部地区の高校にも、特別進学コースの設置などを検討していただきたい。再編計画の方針である大学進学率の向上にもつながると考える。（教育）

#### (5) 宮古地区

- ・宮古高校については、築 50 年を経過し、建物の老朽化が進んでいる。生徒が安心して学べる環境を整えるという観点からも、改築や環境改善について配慮いただきたい。（行政）
- ・宮古水産高校では、今年度、いわて留学による入学生が 3 名であり、来年度の受け入れについても、現在、宮古市でも準備を進めている。宮古市の高校に通う生徒のためにも、安心して学べる環境づくりについて、県とともに取り組んでいきたいと考えているところ。（行政）
- ・山田高校の現在の校舎は、生徒数が多い時代から同じ状況であり、生徒数の減少にあわせてコンパクトな建物に改修することも検討していただきたい。（行政）
- ・山田高校の校舎が昔の規模のままであり、校庭についてはほとんど使われていない。山田高校の存在を認知してもらうためにも、中学校と連携し、中学生に部活等で使用してもらうことはできないのか検討していただきたい。（PTA）
- ・前回の会議において、宮古高校の募集定員が多いという話をしたが、今後、山田高校に生徒が残る仕組みについて、引き続き検討していただきたい。（PTA）
- ・宮古地区において、200 名以上の欠員が生じている状況を踏まえると、学級数の調整も必要だとの認識である。（教育）
- ・私立高校があれば、1 月に私立高校の受検をしたうえで 3 月の県立高校の入試を受検できるが、宮古地区には私立高校がないことから、3 月の県立高校の受検のみという生徒が多い。今後、学級減や統合により募集定員が急激に減らされると、生徒への影響が大きいことから、宮古地区の状況を踏まえて進めていただきたい。（教育）

#### (6) 県北地区

- ・久慈市としては、今回の修正案は非常に問題であると認識している。水産業は厳しい状況にあり、県全体で後継者育成に取り組んでいるが、宮古への集約は通学困難や経費負担を招き、水産系列を選ぶ生徒は大幅に減少する恐れがある。また、調理師養成施設の廃止も、地元で活躍する人材の育成機会を奪い、地域の産業振興や若者の地元定着に逆行する。（行政）
- ・大野高校の募集停止に関する記載方法について、再考を求める。前回の会議で「在校生や入学希望者への影響を考慮し、推計による予測は記載しないしてほしい」と要望したが、今回の修正案では、本文や別表に令和 9 年度募集停止見込みが記載されており、残念に感じている。（行政）
- ・高校再編により、子どもの選択肢が減り、地域条件がさらに厳しくなることを懸念している。現在でも通学は時間的・経済的に負担が大きく、宮古への通学はさらに困難である。（行政）
- ・県の産業振興や若者定着の方針と、県教委の再編計画が整合しているのか疑問を感じる。また、下宿や通学に伴う経済的負担は大きく、保護者にとって深刻な課題である。（行政）

- ・久慈翔北高校の系列の選択の募集停止となると、宮古までの通学は大きな負担となり、保護者の経済的負担も増えることから、Web 授業などの ICT 活用を含め、系列を減らさないための工夫を検討してほしい。（産業）
- ・教員確保や効率化の重要性は理解するが、教育は単なる効率だけでは語れないことから、柔軟な対応と再考を強く要望する。（PTA）
- ・人口減少や少子化、地元企業の人材確保など、様々な課題を抱える現状を踏まえ、これまでの検討会議で意見を述べてきた。再編計画には「地域産業を担う人材育成」「多様な可能性を伸ばす」「生徒を主語とした教育環境の整備」が示されており、期待していたが、今回の修正案では思いが十分に反映されず、残念な思いである。（教育）
- ・久慈地区では、令和 7 年度入試で 4 校が定員に達しておらず、10 年後には中学校卒業生が約 58%まで減少する見込みであることから、学級減や学科集約はやむを得ないと理解している。一方で、中学生アンケートでは総合学科希望が多いものの、工業・水産・家庭など専門学科を希望する生徒も一定数存在し、その思いを尊重すべきではないか。（教育）
- ・福岡高校の教育環境について、国公立大学への進学実績も高く、学級減によって教育の質が損なわれないよう、教職員の手厚い配置をお願いしたい。（行政）
- ・福岡高校の校舎は築 58 年が経過し、教室やトイレ、暖房設備などの老朽化が著しい。現状の施設では志願者が減少する要因にもなりかねず、校舎改修の早期の実現を強く希望する。（行政）
- ・軽米高校の 1 学級減については、町としては受け入れがたい。中高一貫教育の実践において、教員数の減少がその取組に支障をきたすことを懸念しており、教員の配置について、激変緩和措置を講じていただきたい。（行政）
- ・子ども達には目指したい大学にチャレンジしてほしいと願っており、受験に必要な科目が履修できないから志望校を諦めることはあってはならないと考えている。福岡高校では、1 学級減することで教員数が減り、履修できる科目が制限されるのではないかと懸念しており、すべての受験科目が履修できるような教育課程を維持していただきたい。（教育）
- ・福岡高校が令和 14 年度にさらに 1 学級減となる予測が示されているが、福岡高校は大学進学を目指す学校としての機能を失ってしまうのではないかと危惧している。県北・二戸地区の高校教育の振興について、子ども達が安心して学べる環境を、県として明確に示していただきたい。（教育）

## V その他

### 1 第 3 期県立高等学校再編計画全般

- ・子どもの数が減少している中、学級数の削減や学科の見直しの必要があることは理解している。（PTA）
- ・再編計画において、地域との連携、協働の強化、多様性への対応、共通性の確保が盛り込まれていることについて評価する。また、地域校の設定についても評価する。（教育）
- ・生徒数の減少は仕方がないこととして、実情に合わせて教員の定数や学級編成を柔軟に対応して変更していくこともあって良いのではないかと考える。ますます少子化が進む中で、「岩手独自のスタイルの高校」があっても良いと考え、今後の再編の中で考慮を期待する。（教育）
- ・子ども達を未来へ送り出すために、10 年後・20 年後を見据えた大胆な方向性を県教委から示してほしいと考える。（産業）
- ・少子化により高校の統合が進むことはやむを得ないと理解している一方で、統合によって子ども達の学びの選択肢が狭まるのではないかと不安を感じる。（PTA）
- ・これまで修正案の議論を重ねる中で、高校再編の全体像が見えつつあり、より良い教育環境を整備する方向性が形になってきたと感じている。今後重要になるのは、再編後の環境の中でどのような学びを提供していくかという「学びの質」であり、探究的な学びをはじめ、カリキュラムそのものに踏み込んだ改善が必要だと考える。（教育）
- ・再編は単なる統廃合ではなく、教育内容や学びの形を見直す機会でもある。子ども達が自分の望む学びを選択できるよう、柔軟な発想で取り組み、今後も学びの選択肢を広げる工夫を続けていただきたい。（教育）

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県立高校は子どもの教育機会だけでなく、地域活性化にも重要な役割を果たしている。再編計画においては、地域性を踏まえた柔軟な対応を求める。（産業）</li> <li>・少子化が進む中で高校再編はやむを得ないとの認識はあるが、地域における学びの機会の保障は子どもの権利であり、最優先で考えるべき。（教育）</li> <li>・地域の高校の魅力をさらに打ち出し、子ども達に伝えることが重要である。再編計画の修正は理解するが、特色や魅力を維持し、選択肢を確保する方向への再考を要望する（教育）</li> </ul>
<b>2 私立高校との調整</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・盛岡地区においても子どもの数が大幅に減少していく中で、私立高校も含めて、生徒数、教員数について検討していく必要があるのではないか。（教育）</li> <li>・少子化の中、全国的に私立高校への進学が増えている。公立高校は人事異動によって教育を支えるため、その魅力維持は大変な課題である。今後は公私のバランスを考える必要があるのではないか。（行政）</li> <li>・公立高校は私立高校と競争するのではなく、共存共栄の関係を築くべきである。花巻東高校のように志願者が定員を超える状況は、周辺の県立高校の生徒にも良い刺激となっており、私立高校への支援も続けてほしい。（行政）</li> <li>・公立高校の部活動推薦が廃止されたことで、昨年から私立高校が特待生制度などで積極的に声をかける傾向が強まり、県立高校の志願者割合が大きく減少している。今後も都市部の高校や私立高校へ生徒が流れる傾向が加速することを懸念している。（教育）</li> <li>・県立高校は地域のバランスを考慮する必要がある、特色ある高校づくりは難しい面があると考え。私立高校が無償化されるのであれば、例えば、陸前高田市の高校を県立ではなく私立系列と連携し、契約を結ぶことで、学びの場を確保しつつ、魅力化を図る柔軟な方法も検討できるのではないか。（行政）</li> </ul>
<b>3 策定手続き</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画が公表されるにあたり、中学生などが進路選択に困惑することのないよう、実施時期を含め、慎重で十分な周知をお願いしたい。（教育）</li> <li>・生徒がどのようなことを学んで、将来、地元でどのような働き方をするかという部分については、親としても経営者としても気になる部分である。このような会議においても、地域の経営者にもっと多く参加していただき、話を伺ってもよいのではないか。（PTA）</li> <li>・アンケート調査を継続し、計画策定に反映してほしい。特に5年ごとのスパンで前期・後期計画を練る際には、中学生だけでなく、小学校高学年や保護者の意見も取り入れるべき。（産業）</li> </ul>
<b>4 その他</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校舎の老朽化の問題については、市町村立小中学校の廃校を活用するという方法もあるのではないか。（産業）</li> <li>・子ども達に憧れを持たせる仕組みが不足しているのではないか。また、役割や郷土愛を持たせる教育が必要であり、学校をただ通う場所ではなく、目的や責任を持たせる場所とするべき。そのためには、中学校までに将来や地域との関わりを考えさせる教育が重要である。（産業）</li> <li>・岩手の活性化というのも教育の目的の1つである。知事部局と連携し、県立高校を核とした市町村の活性化にも取り組んでほしい。（教育）</li> <li>・人を育てる土壌づくりが重要である。今後の課題は教職員の育成であり、教員不足や働き方の問題を解決し、教育の質を守るための支援体制の見直しが不可欠である。（PTA）</li> <li>・生徒数が減少する根本的な原因は何かということを考えなくてはならないと感じており、県教委だけでなく、県を挙げて取り組んでいただきたい。（産業）</li> <li>・中学生が高校を選択するきっかけとして、高校生と中学生が意見交換を行う場の創設についても県で検討していただきたい。（教育）</li> <li>・高校時代に地元にいることで、地元就職を希望する生徒が多い。高校段階で地域を離れることは、地域定着に影響する。専門教員の確保が難しいとの説明は理解するが、教員確保のための助成や育成策を県として講じ、教員の担い手を増やす取組を進めてほしい。（産業）</li> </ul>

## Ⅱ 意見交換会（第２回）開催結果

### １ 内容

- (1) 「第３期県立高等学校再編計画」（修正案）についての概要説明
- (2) 「第３期県立高等学校再編計画」（修正案）についての意見交換

### ２ 対象者

地域住民

### ３ 出席者数等

地区名	地区名の 市町村名	実施期日	会場	出席者数			
				一般県民	県議会議員	報道	地区計
盛岡	盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町	令和７年１２月２３日	盛岡市総合福祉センター	14	0	1	15
中部	花巻市、北上市、遠野市、西和賀町	令和７年１２月２４日	花巻市定住交流センター	15	0	2	17
県南	奥州市、金ケ崎町、平泉町、一関市	令和７年１２月１８日	奥州市文化会館２ホール	38	0	4	42
沿岸南部	陸前高田市、大船渡市、住田町、釜石市、大槌町	令和７年１２月１５日	陸前高田市 コミュニティホール	23	0	2	25
宮古	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	令和７年１２月１９日	宮古市地域創生センター	7	0	1	8
県北 (県北①)	久慈市、洋野町、野田村、普代村	令和７年１２月１６日	久慈地区合同庁舎	11	0	0	11
県北 (県北②)	二戸市、一戸町、軽米町、九戸村	令和７年１２月１７日	二戸市シビックセンター	9	0	1	10
計				117	0	11	128

### ４ 主な発言内容

Ⅰ 第３期県立高等学校再編計画の策定について	
１ 策定の趣旨	—
２ 計画の性格	—
３ 計画の期間	—
Ⅱ 現状と課題	
１ 岩手の未来を担う人材の育成	—
２ 高等学校の多様化への対応（「共通性の確保」と「多様性への対応」）	—

3	少子化による生徒数減少への対応	—
4	地域や地域産業と高等学校教育との関わり	—
5	専門的な知識を持つ人材の育成	—
Ⅲ 第3期県立高等学校再編計画の方針		
1	基本的な考え方	
(1)	全体方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県としても、中学校と連携し、不登校の生徒が県立高校に進学できるような支援体制を整えるべきである。</li> <li>・ADHD の特性や知的障がいの認定を受ける等して、支援学級で努力してきた子ども達が高校進学時に行き場を失う現状に不安を感じている。高校には支援学級がなく、支援学校への進学しか選択肢がないように思える。少子化が進む中でも、地域で大切にされてきた学校の文化を守り、すべての子ども達が自分の可能性を見出せるような教育環境を整えていただきたい。</li> </ul>
(2)	学校・学級の規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手県は広大な面積を有し、生徒の通学時間や保護者の負担、地域資源などを考慮すべきである。北海道では令和8年度から10年度にかけて「公立高等学校配置計画」を策定し、地域連携校等の募集停止を留保する方針を示しており、岩手県も同様に、地域と連携した集中取組期間を設け、募集停止の一部を留保すべきであると考ええる。</li> <li>・現在、岩手県では1学級40人を基準としているが、これは高校標準法に基づくものであり、同法には「やむを得ない事情がある場合はこの限りでない」との規定もある。たとえば、盛岡地区の平舘高校のような普通科以外の特色ある学校・学科については、定員の見直しが必要ではないか。</li> <li>・適正な学級定員について、現在の1学級40人という定員は、生徒一人ひとりの個性や能力を伸ばす観点から多すぎると考える。30人程度が望ましい定員ではないか。</li> <li>・1学年1学級校で入学志願者が2年連続20人以下の場合、翌年度から募集停止となるルールがあるが、さらなる猶予を検討できないか。単なる延長ではなく、地域の合意形成や中長期的な再編の議論に時間を確保するための猶予を求めたい。</li> <li>・盛岡地区の高校については一定規模を確保することが教育にとって重要とされているが、一方で地域校については一定規模でなくてもよいというような説明がなされており、矛盾を感じる。盛岡地区では1学年4～6学級を維持しようとしているのに、他地域では1学級でもよいというのは、教育水準の格差を広げることにならないのか。</li> </ul>
(3)	通学区域	—
(4)	通学等の支援	—
2	高等学校教育の充実に向けた方策	
(1)	高校の特色化・魅力化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力化の努力について、私立高校の志願者が増えているのに対し、公立高校の志願者が大幅に減少しているのは、私立高校に比べて公立高校の魅力発信や生徒募集の努力が足りていないのではないか。</li> <li>・特色化・魅力化の取組時期について、再編計画を打ち出す前に、県教委としてなぜ特色化・魅力化の取組をより強く打ち出さなかったのか。入学</li> </ul>

	<p>者が減少し、再編が既定路線となってから議論されても、地域としては受け入れがたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な学びの必要性について、私立高校への入学が増加している状況に対し、県立高校の魅力を高めるため、2年で卒業できる単位制の導入など、生徒の多様な要望を受け入れる施策を積極的に行うべきであり、現状は県立高校が「ギリ貧」になりかねない。</li> <li>・オンライン授業は教育の本質に反するので反対である。</li> <li>・リモート学習については、タブレット端末を購入し環境は整っているものの、実際には活用されていないと感じており、教育の場がリモート中心になると、人と人との接点が薄れてしまうのではないかと懸念している。</li> </ul>
(2) いわて留学（県外募集）	—
3 学校・学科の配置	
(1) 普通高校	—
(2) 専門高校	・地域産業を担う人材育成の観点から、工業、水産等の専門高校については、地域と一体で就職連携を行ってはどうか。
(3) 総合学科高校	—
(4) 定時制・通信制高校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・私立の広域通信制高校では学費が月額 28 万円程度かかるが、県立の定時制・通信制であればその 3 分の 1 以下の費用で学ぶことができ、資格取得や就職実績も優れている。地域産業や歴史を踏まえ、定時制・通信制高校の価値を再評価し、県として積極的に推進していただきたい。</li> <li>・県立高校のニーズと地域のニーズが合っていないと感じる。不登校の生徒が増加しており、全国的には 11 人に 1 人が通信制に通っているというデータもある。経済的負担の大きい私立通信制に進学せざるを得ない状況は、保護者にとって大きな負担であり、幸福度の向上にはつながらない。</li> </ul>
(5) 中高一貫教育校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩手県には現在、一関第一高校に県立中学校が併設されているが、それ以外に新たに県立中学校を設置する予定はあるのか。盛岡や八戸に生徒が流出している現状を踏まえると、職業教育や自然を活かした学びを中学校段階から取り入れ、受検にも対応できるような広い学びの場が必要であると感じている。</li> </ul>
IV 再編プログラム	
1 全体プログラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校が統廃合される計画であるが、逆に大規模校の定員を絞り、その分を分散することで、小規模校の維持を図るという考えはなかったのか。</li> <li>・再編計画の構造的偏りについて、今回の再編計画は生徒が減っている地域をさらに減らす仕組みになっており、盛岡地区周辺は影響がほとんどない一方、沿岸地区や県南地区が大きな影響を受けている。これは盛岡地区一極集中を加速させかねない。</li> <li>・定員見直しの必要性について、学級数や定員の見直し（大規模校の定員抑制など）をせずに行う高校再編は、地域性から見て公平性を欠いている。</li> </ul>
2 地区別プログラム	
(1) 盛岡地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平舘高校は地域に根ざした学校であり、募集停止を数年間猶予することはできないのか。地域みらい留学の取組や寮の整備、体験入学など、今まさに動き出している施策がある。これらの成果を見極める時間を設けるべきである。</li> <li>・平舘高校の今年度の体験入学者は去年の約 2 倍となり、家政科学科を希望する生徒も一時は 10 名に達していたが、再編計画の発表により志願を</li> </ul>

- 控える生徒が出ており、現在は7名程度に減少している。募集停止を猶予すれば、市外の中学生を含めて志願者が増える可能性もあると考える。
- ・地域検討会議では、八幡平市以外の滝沢市や岩手町からも、家政科学科は地域にとって重要であり、廃止すべきではないと発言があった。県全体で見ても、家庭を学べる学科の存在は貴重であり、周辺地域の意見を再編計画に反映すべきではないか。
  - ・今後も多くの意見が寄せられると思うので、ぜひそれらを丁寧を受け止め、計画の見直しに向けて一歩でも進めていただきたい。
  - ・平舘高校家政科学科の募集停止について、2年後の募集停止が延長されることを期待していたが、今回の修正案には反映されておらず、非常に残念である。市としても、商工会や同窓会を中心に、活性化に向けた取り組みを始めている。最終的な修正までには時間があるため、ぜひ再考をお願いしたい。
  - ・現在、平舘高校では、家政科学科存続の署名活動なども行われているが、正直なところ、署名だけでは限界があると感じている。ハロウ校のような資源を活用し、アジア圏などからの留学生を受け入れる仕組みを整えることで、地域の高校が大きく変わるのではないか。交流事業や大学進学支援を行うことで、東大などの難関大学への進学実績が出れば、地域の高校への注目が飛躍的に高まる可能性があり、事業の検討をしていただきたい。

## (2) 中部地区

- ・花北青雲高校の情報工学科の募集停止について、地域への影響を十分に考えてほしい。
- ・黒沢尻工業高校に半導体関連の学科を設置するとのことであるが、半導体産業は地場産業との関連性が低い分野であり、県が半導体産業をしていくほど、地場産業を軽視していると感じる。地域において経済を回している地場企業にこそ、地域の工業学科の高校生が就職してほしい。そのために、企業も人材確保のために努力している。
- ・花北青雲高校の情報工学科の募集停止について、花巻の地場企業は非常に危機感を持っている。
- ・花北青雲高校の学びは、3つの学科が揃ってこそそのものだ考える。情報工学科については、黒沢尻工業高校のような専門的な学びではないかもしれないが、時代にマッチしながら、工業を広く学べることが特徴である。また、就職希望者の8割が地元、県内に就職している。
- ・花北青雲高校の情報工学科を希望する生徒は、花北青雲高校だからこそ選択していると思われる。黒沢尻工業高校へ工業の学びを集約したとしても、黒沢尻工業高校へ進学することは考えられない。
- ・遠野高校と遠野緑峰高校の統合について、実習移動型ということであるが、遠野緑峰高校の高いレベルの学びをさらに向上させることができるのか疑問である。
- ・遠野緑峰高校の農場管理について、具体的な計画を立てていくことが必要。生き物の管理、建物の維持管理、環境維持について、教職員から心配の声も聞いている。
- ・花北青雲高校の情報工学科の募集停止について反対である。子どもからの意見聴取では、通いやすい学校を希望する意見が多かったとのことである。親としては、通いやすい学校というのが一番の願いである。
- ・石鳥谷中学校は花巻中学校の次に生徒数が多い。情報の勉強がしたい子どもが、黒沢尻工業高校に進学するという選択はないと思う。現在、花北青雲高校の情報工学科については、定員の半数以上を毎年確保している中で、統合という選択はあり得ないと思う。

## (3) 県南地区

- ・金ケ崎高校の校長先生の勤務年数は長くても3年、大半が2年程度で転勤しており、校長が高校の発展に取り組むには短すぎる。校長がリーダーシップを発揮し、特色化・魅力化に取り組むためには最低でも5年程度の在任期間を保障する人事配置が必要ではないか。校長が短期間で変わることが、様々な取組の中断を招き、結果として金ケ崎高校の評価が下がった一因になっていると考える。県教委の指導・援助が弱かったのではないか。
- ・地域の声を聞いたとのことだが、提出した要望書の内容が再編計画の修正案に全く反映されていないのは非常に残念である。
- ・金ケ崎高校の存続について、高校がなくなると生徒が遠方の高校に通学する負担が増え、地元に残る可能性のある生徒の選択肢が失われる。同窓



会としても存続に向けて運動を進めていく。

- ・金ケ崎高校について2学級から1学級への削減を経て廃校へ向かうというプロセスではなく、いきなり統合を進めるやり方は急激過ぎるため、計画を緩和すべきではないか。
- ・地域産業との連携について、金ケ崎町は大手企業が多数立地する東北有数の工業地帯である。金ケ崎高校は進学だけに特化せず、この立地を活かし、大手企業に就職できるような学校づくりやルート整備を進めるべきであり、地域の人材確保のためにも高校をなくすべきではない。
- ・募集停止計画の存在を知らずに入学させたため、後から案を公表されたことは「裏切られた」思いであり、特に進路選択を控える中学校2年生の保護者として大きな不安と失望を感じている。金ケ崎高校は絶対に残していただきたい。
- ・農業・工業の学びの配置バランスについて、系列が廃止されることにより、岩谷堂高校への進学を断念したり、進路に迷い始めたりする中学生がいる。代替となる水沢農業高校への通学は距離やバスの便から親の送迎負担が大きく、学べる場所の地理的配置を考慮していただきたい。
- ・総合学科の魅力維持について、岩谷堂高校の魅力である6系列を維持し、江刺の遠方から来ている生徒に学びを保障していただきたい。また、専門学科と異なり、岩谷堂高校では幅広い分野を学べるというメリットがあり、将来の選択肢を確保する上で重要である。
- ・金ケ崎高校は、地域、学校が一体となった魅力化への取組がようやく始まったところであり、急な統合ではなく、あと2年、3年の時間的猶予を与え、その努力の成果を見て判断してほしい。
- ・金ケ崎町は工業団地があり、自然減を社会増で補填している特殊な人口動態にある。子どもや親が地元高校への進学を望む選択肢を残すため、地域・産業・学校の連携や関係交流人口の増加といった大きな視点で、金ケ崎高校の在り方を再考してほしい。地域にとって大事な学校は残してほしい。

#### (4) 沿岸南部地区

- ・今回の修正案について、さらに見直しを重ね、大船渡東高校の食物文化科の存続を強く求める。また、高田高校の海洋システム科も地域性を踏まえ、存続を検討してほしい。
- ・この地域の現状を考えると、重要な専門学科がなくなることは地域衰退につながる。道路整備も不十分で、内陸へのアクセスも弱い中、非常に厳しい状況である。例えば、商工関係や水産関係の方々も交え、地域に学科を残すための協議を行うべきだと思う。
- ・今回の計画で食物文化科が対象となった理由について疑問を抱いている。岩手県公共施設等総合管理計画の第二期では、公共施設を15%削減する方針が示され、学校施設も対象となった。しかし、その一方で宮古に新校舎を建設することは、計画との整合性に矛盾が生じるのではないかと考える。
- ・この計画で取り残されているのは地域である。専門高校は地元就職に直結するため、地域企業からも1学級でも残してほしいという強い要望がある。県と地域が歩み寄り、知恵を出し合って高校のあり方を検討すべきである。
- ・推測される学級減等の時期によると、大船渡高校は令和13年度に1学級減となり、教員が約8名減少する見込みとなっている。そうすると、進学校としての機能維持が困難になるため、進学型単位制を早期に導入すべきと考える。
- ・普通高校および専門高校、特に食物文化科については、地域の存続のために、延長ではなく存続の方向で検討いただきたい。
- ・大船渡東高校は通常の耐震性能の1.25倍、耐用年数60年で設計されており、開校18年経過した現在も残り42年使用可能である。食物文化科の調理室や普通教室の床面積は約1,900～2,000㎡であり、現行単価で建築すれば宮古商工の増額分に近い金額になると推測する。宮古に食物文化科を集約するのではなく、既存の大船渡東高校を活用する方が経済的であると考え。寮や教員確保は宮古市でも大船渡市でも条件は同じである。
- ・調理師養成施設の集約により食物文化科で資格取得を目指す生徒が、地元校で学べなくなることは大きなデメリットである。遠方への進学は生活面で負担が大きく、退学リスクも高まる。退学すれば高卒資格を失い、将来に深刻な影響を与える可能性がある。こうしたリスクを考慮し、存続に向けて教員確保に集中してほしい。
- ・食物文化科は大船渡東高校でも在籍生徒数が多く、廃止されれば学校全体の生徒数が減り、学校の存続も危うくなる。将来的に普通科と専門学科

	<p>を併設する形や、気仙地区の高校統合による専門学科維持など、地域に学びの場を残す方向性を検討すべきである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>沿岸地区は盛岡市と異なり、医師不足が深刻である。このため、沿岸地区に医系コースを設置してほしいというのが地域の強い願いである。数年後に現状が変わる可能性はあるが、医系コースを沿岸に設置することで、地域に医師養成の仕組みをつくることを期待している。</li> </ul>
(5) 宮古地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>いわて留学制度は、受け入れる側が地域ぐるみでウェルカムという前提があり、居心地の良さが生まれやすい。一方、統合に伴う寮生活は地元校がなくなるから仕方なく来る生徒が多くなることから、学校外の地域で生活する時間への適応支援が重要である。地域、学校、行政による継続的なサポートをお願いしたい。</li> <li>進学校である宮古高校も、進学のみならず公務員志望等への手厚い支援を求めたい。</li> </ul>
(6) 県北地区	<ul style="list-style-type: none"> <li>当地域は第1次産業が中心であり、今回の計画を見ても、地域産業を切り捨てるような観点でしか捉えられない。</li> <li>当組合の事業は海洋系列と深く関わっており、卒業生は職場の大半を占める。これまで毎年2、3名を採用してきたが、再編計画を見ると、今後の事業展開に不安を感じる。水産系列については、より長期的に現状維持を検討し、地域産業と教育の継続を図ってほしい。</li> <li>二戸地域では児童生徒数が激減しており、8校ある小学校も1校で足りるほどである。様子見では間に合わず、県の責任で早急に再編を進めるべきで、福岡高校の改築もセンター・スクールとしての位置づけで進めていただきたい。</li> <li>二戸市に集中させるのではなく、地域に高校があることが重要であり、地域校については、志願者の数が20人を上回れば存続させるという方針を今後も堅持していただきたい。</li> <li>少子化が進む現状において、地域での生徒確保が難しくなっていることを実感しており、軽米高校では1クラス減となり、少人数での手厚い支援が受けられなくなることに不安を感じている。子どもの数が減る中で、学びの場が削られていくのは、親として心配である。</li> </ul>
<b>V その他</b>	
1 第3期県立高等学校再編計画全般	<ul style="list-style-type: none"> <li>高校がなくなると地域産業にも影響が出る。知事部局や産業分野とも連携し、県民計画との整合性も含めて検討すべきである。</li> <li>重要なのは、何が子どものためになるのかという視点で、地域が寂しくなる、子どもの声が聞こえなくなるといった感情的な問題ではなく、子どもも主体で考えるべき。</li> <li>教育を遂行するには人的資源や施設設備が整った環境が必要で、根本的な問題は、県全体の政策にあると考えており、人が減るから学校が減るという流れを止めるには、県北・沿岸地域の振興策が不可欠である。</li> <li>再編に関しては、岩手県は非常に丁寧に取り組んでいると感じており、他県と比べても、こうした意見交換を行っているのは珍しいことで、県にはしっかり進めて欲しいという思いがある。</li> </ul>
2 私立高校との調整	—
3 策定手続き	—
4 その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>編入の柔軟化について、無理をして進学校に入学し、勉強についていけずに辞めてしまう生徒が多いと聞く。そうした生徒が円滑に別の学校に移れるよう、編入対応などの手続きをより柔軟にしていく環境整備が必要ではないか。</li> </ul>

### Ⅲ その他（第3期県立高等学校再編計画（修正案）に関する出前説明会開催状況）

#### 1 開催期間

令和7年12月9日（火）～12月25日（木）

#### 2 要望団体数

1団体

#### 3 開催状況

	開催日時	主催団体名	会場	出席者数		
				一般参加者	報道	計
1	令和7年12月10日（水）18:00～	岩谷堂高等学校同窓会	奥州市岩谷堂地区センター	60	4	64

#### 4 主な発言内容

実施団体	発言内容（要旨）
岩谷堂高等学校同窓会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩谷堂高校に実際に入学した生徒に聞くと、初めから工業や農業の専門高校に行きたかった生徒は少なく、入学してから地域の人との交流や体験により、自分の興味がわいてきた分野に進路を定める生徒が非常に多い。系列の選択の募集停止にあたっては、単純に農業高校があるからとか、工業高校があるからという話ではないと考える。</li> <li>・系列の選択募集停止がなぜ今なのか。岩谷堂高校には江刺地区だけでなく、水沢や他地域から通う生徒もあり、生徒の進路選択の状況を見極めてからでもよいのではないかと考える。</li> <li>・工業の学びについては、県南地区で大規模な学校を作ることであるが、まだ場所も決まってない中、もう少し6系列を続けていただきたい。</li> <li>・水沢農業高校がいずれ存続できないということであれば、岩谷堂高校の農業系列を廃止にするのではなく、水沢農業高校を岩谷堂高校に統合する方がいいのではないかと考える。</li> <li>・総合学科で個性を伸ばそうというスローガンがある中、系列を減らすと生徒の選択肢が少なくなる。系列が少なくなることで総合学科の魅力が無くなるのではないかと考える。</li> <li>・岩谷堂高校の工業系列は、専門高校に入っても進めないような進路を選択できるというメリットがあると聞いている。本当に現時点で選択の募集停止を決めていいのかと考えているところ。</li> <li>・胆江圏域には、進学校、専門高校、総合学科高校があり、非常に恵まれている環境にあると感じており、その環境を維持するためにどう取り組んでいくかという視点を持っていただきたい。教職員の定数や予算の面もあり、厳しいということも理解するが、どうすれば子ども達に充実した教育環境を与えることができるのかという面で検討していただきたい。</li> <li>・策定の趣旨に持続可能な社会の創り手となる人材の育成等を掲げているが、現在の進学校偏重の施策では地元に残る生徒が少なく、矛盾しているのではないかと考える。実際に地元に残って、農業、工業を支えているのは岩谷堂高校の出身者であり、それを無視するようなやり方では納得できないことから、再考を願いたい。</li> </ul>

## 事務報告 4

### 令和 7 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

令和 7 年度にスポーツ庁が実施した「令和 7 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果」が公表されましたので、本県の概要について別紙のとおり報告します。

令和 8 年 1 月 19 日



## 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果における本県の概要について

### I 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査について

#### 1 主 催

スポーツ庁

#### 2 対 象

小学校、義務教育学校前期課程及び特別支援学校小学部の5年生全員  
中学校、義務教育学校後期課程及び特別支援学校中学部の2年生全員

#### 3 実施年度（時期）

令和7年度（4～7月）

#### 4 本県の調査校数と児童生徒数

校種	学校数	男子	女子	合計
小学校	266	4,182	4,004	8,186
中学校	155	4,060	3,953	8,013

### II 本県の調査結果の概要（要旨）

- ・本県児童生徒の状況について、「体力合計点の状況」「1週間の総運動時間の状況」「運動好きの状況」「朝食摂取の状況」「1日の睡眠時間の状況」「1日のスクリーンタイムの状況」の全てにおいて、全国の平均値を上回る状況にあります。
- ・「1週間の総運動時間の状況」について、本県の経年で比較すると減少傾向にあります。

### 1 体力合計点の状況（全国比較）

※ 実技調査結果を1項目につき10点満点で評価し、下記の全8項目を合計した値（平均点）（単位：点）

- ・握力
- ・上体起こし
- ・長座体前屈
- ・反復横跳び
- ・20mシャトルラン／持久走（中学校）
- ・50m走
- ・立ち幅跳び
- ・ソフトボール投げ（小学校）／ハンドボール投げ（中学校）

■ 小5男女・中2男女の全てで全国平均値を上回る状況にあります。  
令和6年度と比較して、小5男女・中2男女の全てで上昇しています。

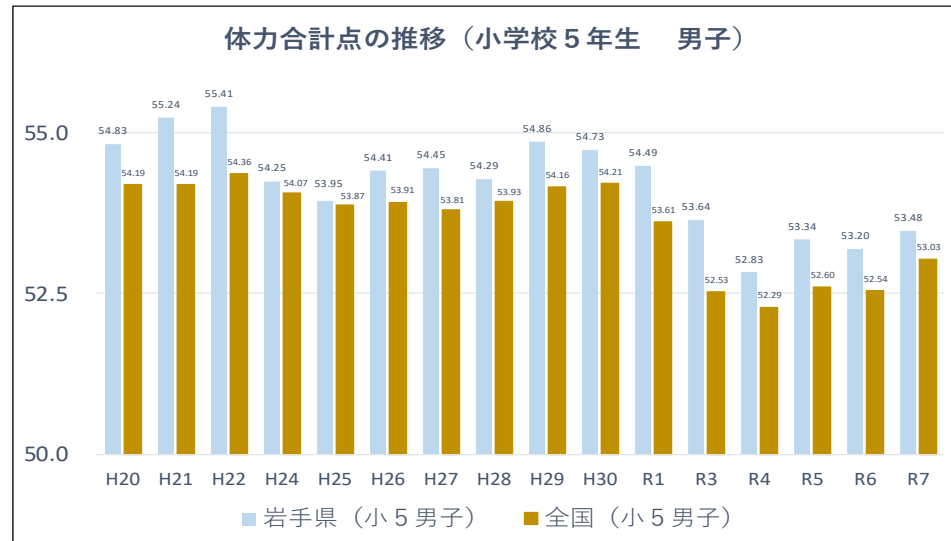
校種	性別	区分	R03	R04	R05	R06	R07	R7本県の比較
小5	男子	本県	53.64	52.83	53.34	53.2	<b>53.48</b>	前年比 +0.28
		全国	52.53	52.29	52.6	52.54	53.03	全国比 +0.45
	女子	本県	56.58	55.75	55.96	55.14	<b>55.3</b>	前年比 +0.16
		全国	54.66	54.32	54.29	53.93	53.98	全国比 +1.32
中2	男子	本県	43.74	43.46	43.09	43.54	<b>43.98</b>	前年比 +0.44
		全国	41.05	40.9	41.18	41.69	42.06	全国比 +1.92
	女子	本県	50.82	49.81	49.07	48.71	<b>49.22</b>	前年比 +0.51
		全国	48.41	47.28	47.08	47.22	47.46	全国比 +1.76

## 体力合計点の推移（全国比較）〔平成 20 年度から令和 7 年度〕

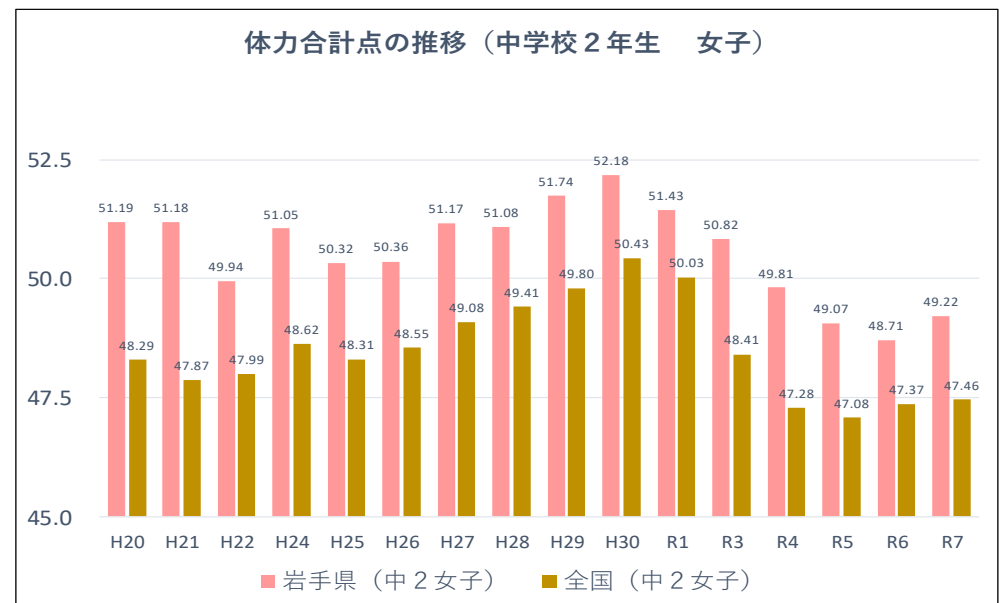
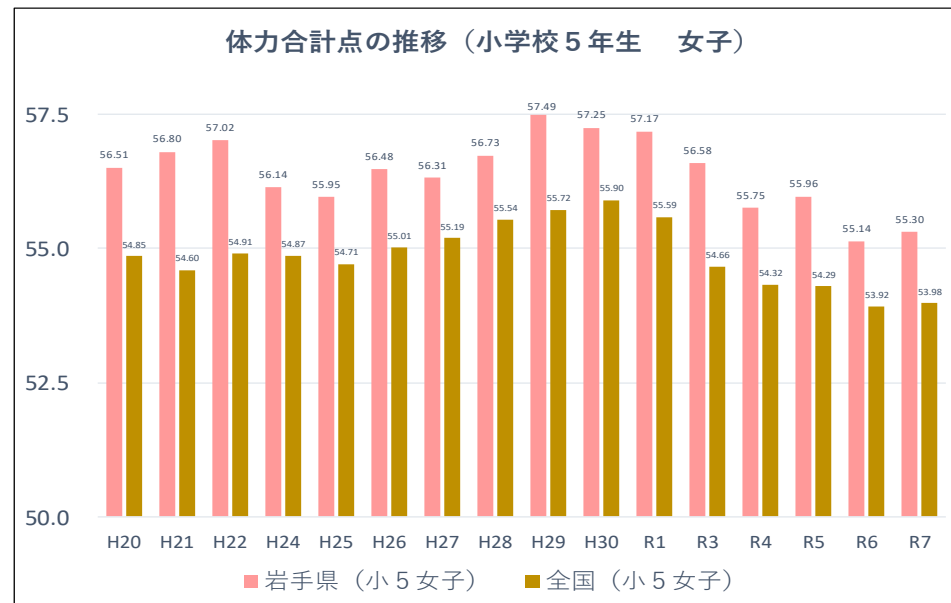
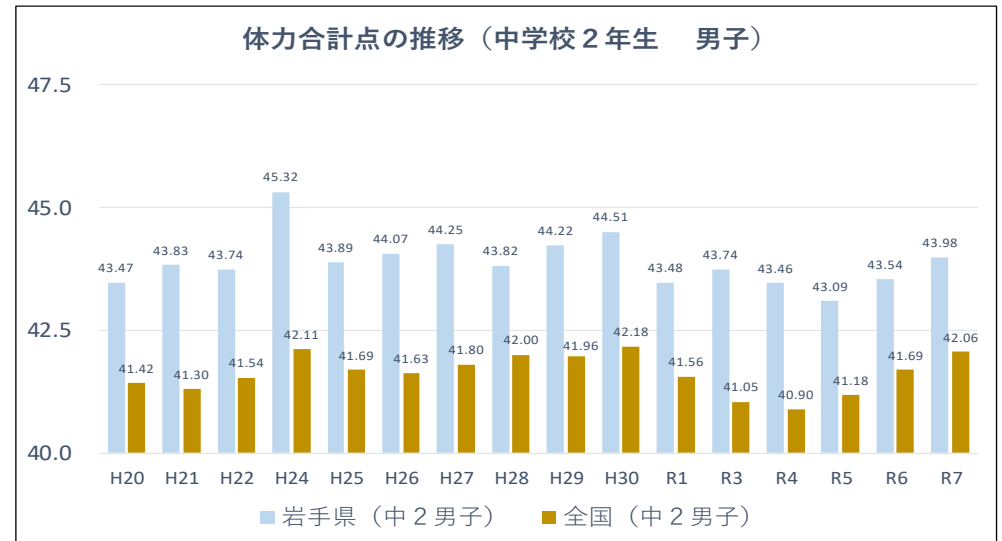
※「1 体力合計点の状況（全国比較）」の参考資料

・本県の体力合計点は、本調査実施以降（平成 20 年度）すべての年度で全国平均を上回っている。

### 【小学校】



### 【中学校】



## 2 実技調査項目別における本県の結果（全国比較）

※ 網掛け部分は、全国平均値を上回っている項目

種目		学年		小学校 5 年生		中学校 2 年生	
				男子	女子	男子	女子
握 力 (kg)	R07本県			16.29 kg	16.21 kg	30.36 kg	23.80 kg
	R07全国			15.97 kg	15.61 kg	28.91 kg	23.12 kg
	全国比較			0.32	0.60	1.45	0.68
上体起こし (回)	R07本県			19.53 回	18.74 回	26.40 回	21.89 回
	R07全国			19.45 回	18.36 回	25.99 回	21.62 回
	全国比較			0.08	0.38	0.41	0.27
長座体前屈 (cm)	R07本県			33.44 cm	37.14 cm	45.88 cm	47.76 cm
	R07全国			33.88 cm	38.17 cm	44.98 cm	46.97 cm
	全国比較			-0.44	-1.03	0.90	0.79
反復横とび (点)	R07本県			42.35 点	40.51 点	51.99 点	46.08 点
	R07全国			40.90 点	38.71 点	51.63 点	45.77 点
	全国比較			1.45	1.80	0.36	0.31
持久走 1500m (男子) 1000m (女子) (秒)	R07本県					417.81 秒	308.04 秒
	R07全国					410.24 秒	310.35 秒
	全国比較					7.57	-2.31
20m シャトルラン (回)	R07本県			49.59 回	40.44 回	80.15 回	52.02 回
	R07全国			47.95 回	36.87 回	78.59 回	50.44 回
	全国比較			1.64	3.57	1.56	1.58
50m走 (秒)	R07本県			9.62 秒	9.78 秒	7.91 秒	8.91 秒
	R07全国			9.46 秒	9.77 秒	8.00 秒	8.97 秒
	全国比較			0.16	0.01	-0.09	-0.06
立ち幅とび (cm)	R07本県			150.56 cm	143.27 cm	200.82 cm	167.51 cm
	R07全国			150.96 cm	142.39 cm	197.50 cm	166.39 cm
	全国比較			-0.40	0.88	3.32	1.12
ソフトボール 投げ (小) ハンドボール 投げ (中) (m)	R07本県			22.83 m	14.60 m	22.02 m	13.35 m
	R07全国			21.06 m	13.10 m	20.66 m	12.36 m
	全国比較			1.77	1.50	1.36	0.99

## 3 実技調査項目別における本県の結果（前年度比較）

※ 網掛け部分は、前年度値を上回っている項目

種目		学年		小学校 5 年生		中学校 2 年生	
				男子	女子	男子	女子
握 力 (kg)	R07本県 (a)			16.29 kg	16.21 kg	30.36 kg	23.80 kg
	R06本県 (b)			16.56 kg	16.40 kg	30.10 kg	23.74 kg
	比較 (a-b)			-0.27	-0.19	0.26	0.06
上体起こし (回)	R07本県 (a)			19.53 回	18.74 回	26.40 回	21.89 回
	R06本県 (b)			19.32 回	18.43 回	26.20 回	21.70 回
	比較 (a-b)			0.21	0.31	0.20	0.19
長座体前屈 (cm)	R07本県 (a)			33.44 cm	37.14 cm	45.88 cm	47.76 cm
	R06本県 (b)			32.77 cm	37.04 cm	45.43 cm	47.19 cm
	比較 (a-b)			0.67	0.10	0.45	0.57
反復横とび (点)	R07本県 (a)			42.35 点	40.51 点	51.99 点	46.08 点
	R06本県 (b)			41.99 点	40.30 点	51.68 点	45.59 点
	比較 (a-b)			0.36	0.21	0.31	0.49
持久走 1500m (男子) 1000m (女子) (秒)	R07本県 (a)					417.81 秒	308.04 秒
	R06本県 (b)					413.70 秒	307.52 秒
	比較 (a-b)					4.11	0.52
20m シャトルラン (回)	R07本県 (a)			49.59 回	40.44 回	80.15 回	52.02 回
	R06本県 (b)			49.29 回	39.56 回	80.72 回	51.98 回
	比較 (a-b)			0.30	0.88	-0.57	0.04
50m走 (秒)	R07本県 (a)			9.62 秒	9.78 秒	7.91 秒	8.91 秒
	R06本県 (b)			9.61 秒	9.77 秒	7.96 秒	8.92 秒
	比較 (a-b)			0.01	0.01	-0.05	-0.01
立ち幅とび (cm)	R07本県 (a)			150.56 cm	143.27 cm	200.82 cm	167.51 cm
	R06本県 (b)			150.24 cm	143.52 cm	200.40 cm	166.40 cm
	比較 (a-b)			0.32	-0.25	0.42	1.11
ソフトボール 投げ (小) ハンドボール 投げ (中) (m)	R07本県 (a)			22.83 m	14.60 m	22.02 m	13.35 m
	R06本県 (b)			22.46 m	14.58 m	22.07 m	13.35 m
	比較 (a-b)			0.37	0.02	-0.05	0.00



4 1週間の総運動時間の状況（全国比較）

※ 質問紙調査の「体育の授業以外で、1日にどのぐらいの時間、運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをしていますか」という問いに対して、「1週間の総運動時間が420分以上」と回答した児童生徒の割合（単位：％）

■ 小5男女・中2男女の全てで全国平均値を上回る状況にあります。  
令和6年度と比較して、小5男女・中2男女の全てで減少しています。

校種	性別	区分	R03	R04	R05	R06	R07	R7本県の比較
小5	男子	本県	56.6	57.1	57.0	56.9	53.9	前年比 -3.0
		全国	47.8	50.1	50.0	50.4	47.9	全国比 +6.0
	女子	本県	37.5	36.0	36.0	34.1	33.6	前年比 -0.5
		全国	28.3	29.2	27.3	28.4	26.4	全国比 +7.2
中2	男子	本県	84.2	84.5	78.4	77.2	76.4	前年比 -0.8
		全国	77.6	78.1	76.2	76.2	75.4	全国比 +1.0
	女子	本県	66.9	65.6	61.7	58.3	55.7	前年比 -2.6
		全国	57.0	57.7	55.9	55.0	54.6	全国比 +1.1

5 運動好きの状況（全国比較）

※ 質問紙調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」という問いに対して、「好き」、「やや好き」と回答した児童生徒の割合（単位：％）

■ 小5男女・中2男女の全てで全国平均値を上回る状況にあります。  
令和6年度と比較して、小5男女・中2男子が増加、中2女子が減少しています。

校種	性別	区分	R03	R04	R05	R06	R07	R7本県の比較
小5	男子	本県	92.7	94.6	94.8	94.1	94.9	前年比 +0.8
		全国	91.0	92.4	92.9	93.3	93.4	全国比 +1.5
	女子	本県	85.0	87.6	87.3	87.8	88.7	前年比 +0.9
		全国	83.7	86.0	85.7	86.2	85.8	全国比 +2.9
中2	男子	本県	88.6	91.3	91.4	92.5	93.7	前年比 +1.2
		全国	87.2	88.8	89.2	90.3	91.0	全国比 +2.7
	女子	本県	76.9	80.1	79.2	80.1	79.9	前年比 -0.2
		全国	75.4	77.2	76.4	76.8	77.2	全国比 +2.7

6 朝食摂取の状況（全国比較）

※ 質問紙調査の「朝食は毎日食べますか。（学校が休みの日も含めます）」という問いに対して、「毎日食べる」と回答した児童生徒の割合（単位：％）

■ 小5男女・中2男女の全てで全国平均値を上回る状況にあります。  
令和6年度と比較して、中2女子が増加していますが、小5男女、中2男子で減少しています。

校種	性別	区分	R03	R04	R05	R06	R07	R7本県の比較
小5	男子	本県	83.9	84.8	82.7	84.7	83.6	前年比 -1.1
		全国	81.9	82.3	80.8	81.3	82.5	全国比 +1.1
	女子	本県	82.7	81.9	79.1	82.4	81.5	前年比 -0.9
		全国	81.3	81.1	79.4	79.5	80.4	全国比 +1.1
中2	男子	本県	84.0	83.3	83.4	85.5	84.7	前年比 -0.8
		全国	80.6	80.1	80.0	81.7	82.0	全国比 +2.7
	女子	本県	79.9	76.2	75.7	77.1	77.9	前年比 +0.8
		全国	75.7	73.6	73.0	74.5	74.6	全国比 +3.3

7 1日の睡眠時間の状況（全国比較）

※ 質問紙調査の「毎日どのくらい寝ていますか」という問いに対して、「8時間以上」と回答した児童生徒の割合（単位：％）

■ 小5男女・中2男女の全てで全国平均値を上回る状況にあります。  
令和6年度と比較して、小5男女・中2男女の全てで増加しています。

校種	性別	区分	R03	R04	R05	R06	R07	R7本県の比較
小5	男子	本県	72.4	69.3	70.3	71.8	73.7	前年比 +1.9
		全国	67.8	66.7	67.6	69.2	71.7	全国比 +2.0
	女子	本県	76.8	73.2	73.1	75.1	76.6	前年比 +1.5
		全国	71.3	69.2	70.0	71.6	73.6	全国比 +3.0
中2	男子	本県	33.2	31.8	32.5	38.2	40.9	前年比 +2.7
		全国	29.1	27.8	29.2	35.4	37.5	全国比 +3.4
	女子	本県	24.0	23.3	25.0	29.7	30.6	前年比 +0.9
		全国	21.6	20.2	21.6	26.7	27.7	全国比 +2.9

8 1日のスクリーンタイムの状況（全国比較）

※ 質問紙調査の「平日（月～金曜日）に、学習以外で1日にどのぐらいの時間、テレビやDVD、ゲーム機、スマートフォン、パソコンなどの画面をしていますか。」という問いに対して、「1日の視聴時間が4時間以上」と回答した児童生徒の割合（単位：％）

■ 「1日の視聴時間が4時間以上」と回答した児童の割合は、小5男女・中2男女の全てで全国平均値より少ない状況にあります。令和6年度と比較して、小5男女が減少、中2男女で増加しています。

校種	性別	区分	R03	R04	R05	R06	R07	R7本県の比較	
小5	男子	本県	21.8	24.1	24.7	27.2	24.1	前年比	-3.1
		全国	26.1	27.1	28.0	29.5	27.2	全国比	-3.1
	女子	本県	17.1	18.1	20.9	22.6	18.3	前年比	-4.3
		全国	20.4	22.0	23.6	24.9	22.6	全国比	-4.3
中2	男子	本県	15.6	18.5	21.2	21.0	22.1	前年比	+1.1
		全国	24.7	28.3	29.1	29.0	29.4	全国比	-7.3
	女子	本県	15.7	15.7	18.8	18.5	19.5	前年比	+1.0
		全国	23.3	26.1	27.7	27.9	28.5	全国比	-9.0

議案第 29 号

岩手県いじめ問題対策委員会専門委員の任命に関し議決を求めることについて  
次のとおり岩手県いじめ問題対策委員会専門委員の任命をすることについて、議決を求める。

任命（令和8年1月20日付）

職 名 等	氏 名
臨床心理士	高 橋 昇

令和8年1月19日提出

岩手県教育委員会教育長 佐 藤 一 男

理由

岩手県いじめ問題対策委員会専門委員の任命をしようとするものである。これが、この議案を提出する理由である。

岩手県いじめ問題対策委員会委員 新旧対照表

岩手県教育委員会事務局学校教育室 生徒指導担当

No.	選出区分	現委員（R6. 1. 12～R8. 1. 11）						No.	新委員（R8. 1. 12～R10. 1. 11）						兼任
		職名等	氏名	年齢	性別	任期	居住地		職名等	氏名	年齢	性別	任期	居住地	
1	学識経験者 (法学)	岩手県立大学 総合政策学部 教授	体' コウシ' 窪 幸治	50	男	2 期	盛岡市	1	岩手県立大学 総合政策学部 教授	体' コウシ' 窪 幸治	52	男	3 期	盛岡市	有
2	学識経験者 (教育・心理)	岩手大学 教育学部 准教授	キクチ ヒロシ 菊地 洋	51	男	4 期	盛岡市	2	岩手大学 教育学部 准教授	キクチ ヒロシ 菊地 洋	53	男	5 期	盛岡市	無
3	法律	岩手弁護士会 山中法律事務所 弁護士	ヤマナカ シュンスケ 山中 俊介	48	男	5 期	盛岡市	3	岩手弁護士会 セントラル法律事務所 弁護士	ヌマ ノリユキ 沼 徳之	38	男	新規	盛岡市	無
4		岩手弁護士会 高橋教育事務所 弁護士	テンマ マサツグ 天間 正継	36	男	1 期	盛岡市	4	岩手弁護士会 高橋法律事務所 弁護士	テンマ マサツグ 天間 正継	38	男	2 期	盛岡市	有
5	医療	岩手県医師会 岩手医科大学医学部 教授	ヤキ' ジュンコ 八木 淳子	55	女	2 期	盛岡市	5	岩手県医師会 岩手医科大学 医学部神経精神科学講座 教授	ヤキ' ジュンコ 八木 淳子	57	女	3 期	盛岡市	有
6		岩手県医師会 県立一戸病院 病院長	ササキユカ 佐々木由佳	59	女	1 期	盛岡市	6	岩手県医師会 県立一戸病院 病院長	ササキユカ 佐々木由佳	61	女	2 期	盛岡市	無
7	心理	臨床心理士	タカハシ ノボル 高橋 昇	66	男	5 期	奥州市	7	岩手県臨床心理士会 岩手医科大学 医学部内科学講座 助教	アカサカ ヒロシ 赤坂 博	45	男	新規	紫波町	無
8		岩手県臨床心理士会 スクールカウンセラー	ウエノクニコ 上野久仁子	43	女	3 期	山田町	8	岩手県臨床心理士会 スクールカウンセラー	ウエノクニコ 上野久仁子	45	女	4 期	山田町	無
9	福祉	岩手県社会福祉士会 社会福祉法人岩手県社会福祉協議会 地域福祉活動コーディネーター	カワサキ マイミ 川崎 舞美	43	女	3 期	盛岡市	9	岩手県社会福祉士会 社会福祉法人岩手県社会福祉協議会 相談員	カワサキ マイミ 川崎 舞美	45	女	4 期	盛岡市	無
10		岩手県社会福祉士会 副会長	サトウ マサコ 佐藤 雅子	53	女	1 期	盛岡市	10	岩手県社会福祉士会 副会長	サトウ マサコ 佐藤 雅子	55	女	2 期	盛岡市	無

No.	専門委員（R8. 1. 20～調査審議終了まで）						
	職名等	氏名	年齢	性別	任期	居住地	兼任
1	臨床心理士	高橋 昇	68	男	—	奥州市	無

岩手県いじめ問題対策委員会条例をここに公布する。

平成27年10月28日

岩手県知事 達 増 拓 也

岩手県条例第72号

岩手県いじめ問題対策委員会条例

(設置)

第1条 いじめ防止対策推進法（平成25年法律第71号。以下「法」という。）第14条第3項の規定に基づき、岩手県いじめ問題対策委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(所掌)

第2条 委員会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 法第12条の規定により定められた岩手県いじめ防止等のための基本的な方針に基づくいじめの防止等のための対策について調査審議すること。
- (2) 法第24条の規定による調査を行うこと。
- (3) 法第28条第1項の規定による調査を行うこと。

(組織)

第3条 委員会は、委員10人以内をもって組織し、委員は、法律、医療、心理、福祉等に関し学識経験のある者のうちから教育委員会が任命する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選とする。

2 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(専門委員)

第5条 委員会に、専門の事項を調査審議させるため、専門委員を置くことができる。

2 専門委員は、当該専門の事項に関して十分な知識又は経験を有する者のうちから教育委員会が任命する。

3 専門委員は、当該専門の事項に関する調査審議が終了したときは、解任されるものとする。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が招集する。

2 委員会は、委員及び議事に関係のある専門委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。

3 委員会の議事は、出席した委員及び議事に関係のある専門委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(部会)

第7条 委員会に、部会を置くことができる。

2 部会は、委員長の指名する委員及び専門委員をもって組織する。

3 委員会は、その定めるところにより、部会の議決をもって委員会の議決とすることができる。

4 第4条及び前条の規定は、部会について準用する。

(意見の聴取等)

第8条 委員会は、必要に応じて議事に関係のある者の出席を求め、その意見若しくは説明を聴き、又は必要な資料の提出を求めることができる。

(秘密を守る義務)

第9条 委員及び専門委員は、職務上知ることのできた秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

(庶務)

第10条 委員会の庶務は、教育委員会の事務局において処理する。

(補則)

第11条 この条例に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この条例は、公布の日から施行する。